

産業医部会会報 第 58 号（平成 28 年 8 月 22 日） 正誤表

下記の通り記事内容につき訂正・追加させていただきます。関係者の皆さまには、ご迷惑をおかけいたしました事、深くお詫び申し上げます。

（公社）日本産業衛生学会 産業医部会会報編集委員会

p.20 表中

- ・ 専門医制度関連 専門医試験 （誤）8 月 27 日（土）・29 日（日）  
→（正）8 月 27 日（土）・28 日（日）
- ・ 四国地方会 サマーセミナー （誤）14:00～17:00  
→（正）14:30～17:00
- ・ 第 60 回中国・四国合同産業衛生学会（追加） 会場：米子コンベンションセンター
- ・ 北陸甲信越地方会 総会での産業医部会共催企画  
（誤）平成 28 年 11 月 26 日（土）  
→（正）平成 28 年 10 月 23 日（日）

p.21 表中

- ・ 近畿地方会 産業医部会研修会（追加・変更）  
テーマ がんと就労支援～医療現場と職場・どうつなげるか～  
■基調講演 がん患者の就労支援について、患者団体に出来ること、すべきこと  
NPO 法人がんとともに生きる会 NPO 法人大阪がんええナビ制作委員会  
濱本満紀先生
- パネルディスカッション  
株式会社健康管理室 益江 毅先生  
リード総合法律会計事務所 中辻史記先生  
パナソニック健康保険組合 松下記念病院 松本晴美先生

以上

日本産業衛生学会

第58号 平成28年8月22日

# 産業医部会会報

公益社団法人 日本産業衛生学会 産業医部会事務局  
〒160-0022

東京都新宿区新宿1-29-8 公衛ビル内

TEL 03-3356-1536

FAX 03-5362-3746

e-mail:sanei.4bukai@nifty.com

## 巻頭言

### 『産業医部会会員の産業保健活動に寄せて』

日本産業衛生学会 近畿地方会長

和歌山県立医科大学保健看護学部教授 **森岡郁晴**

日本産業衛生学会近畿地方会は、1936年日本産業衛生協会の京阪地方会として創設されました。今年創設80年になりました。第2次大戦後の実質的な再発足は1953年になります\*。1963年からは近畿産業衛生学会(学術集会)が開催され、今年11月には第57回の学会が奈良で開催されます。

昨年第88回日本産業衛生学会(車谷典夫企画運営委員長)を大阪で開催させていただきました。多くの会員の方々にご参加いただき、感謝しています。また、今年9月に第26回日本産業衛生学会全国協議会(久保田昌詞企画運営委員長、中西一郎運営実行委員長)を京都で開催させていただきます。多くの会員のご参加をお待ちしています。

産業医部会は、1996年に設置されました。会員数は185名(近畿地方会医師会員660名)であり、中西一郎部会長を中心として活発に活動されています。企業と大学に所属する会員が多数を占め、健診機関や病院の医師も多いようです。1997年から産業医部会の研修会が開催され、今年9月には第21回の研修会が第26回日本産業衛生学会全国協議会の中で開催されます。

産業保健活動の中で、産業医は労働者の健康の保持増進に関して中心的な役割を担っています。近年職場には非正規労働者、障害者、高齢労働者が増加し、今後さらに増加することが予測される中、産業医は地域保健担当者、地域医療スタッフなどと連携しなければならない問題が増えてきています。

これまでの産業保健活動は、問題が起こってから対応することが多かったように思います。これからは、化学物質のリスクアセスメントのように、問題が起こるまでに職場における課題を取り上げ、予測されるリスクに対して対策を立てていくことが望まれます。職場における多様な課題をあらかじめ想定し解決法を探るためには、一部の分野についての高度な知識や経験よりも、労働者に対する心身の健康管理に関する知識や経験が求められていくと考えられます。

産業医部会会員の皆様には、産業医学の発展に寄与されるとともに、様々な立場から情報交換、研修、人材育成など幅広い活動をなされています。これからも日本の産業保健活動に貢献していただけることを期待しています。

当地方会も、このような観点に立ち、産業医部会会員の産業保健活動の活性化に取り組んでいきたいと思っています。

\*日本産業衛生学会近畿地方会の歴史 1991年3月

## 第26回 日本産業衛生学会 全国協議会(第3報)

### メインテーマ「変革期を迎えての産業保健の協働」

#### 【参加費】

日本産業衛生学会 学会員

事前登録 6,000円 当日参加 7,000円

日本産業衛生学会 非学会員

事前登録、当日参加とも 9,000円

事業所実地研修 参加費 3,000円

会場内実地研修(産業医認定向け) 参加費 2,000円

#### 【認定制度】

日本医師会認定産業医制度、産業保健看護専門家制度の単位を申請中です。

#### 【懇親会】

平成28年9月9日(金) 18時30分～20時30分

京都テルサ テルサホール(第1会場)

参加費 事前登録 6,000円 当日参加 7,000円

#### 【参加申し込み・宿泊】

ホームページで情報をご参照ください。

#### 【事務局】

学会事務局：(独) 労働者健康安全機構

大阪労災病院 治療就労両立支援センター

〒591-8025 大阪府堺市北区長曾根町1179-3

TEL：072-252-3561 FAX：072-252-1360

運営事務局：株式会社コンベンションリンケージ内

〒604-8162 京都市中京区烏丸通六角下る七観音町634

TEL：075-231-6357 FAX：075-231-6354

#### 【シンポジウム】(公募) 演題は演者を公募

|                      |                                                           |
|----------------------|-----------------------------------------------------------|
| メイン<br>シンポ<br>ジウム    | 変革期を迎えての産業保健の協働                                           |
| シンポ<br>ジウム1<br>(公募)  | ストレスチェック制度<br>～活用の先進事例～                                   |
| シンポ<br>ジウム2          | 防ごう転倒災害? 産業保健スタッフに何<br>ができるか                              |
| シンポ<br>ジウム3          | 夜勤・交代勤務による健康障害を抑止す<br>る                                   |
| シンポ<br>ジウム4          | 女性の職業生活におけるサポートについ<br>て考える ～女性が元気に働くために～                  |
| シンポ<br>ジウム5<br>(公募)  | ダイエット～効果的な保健指導の実践事<br>例～ あなたの事業所では、効果的な保健<br>指導が実践できていますか |
| シンポ<br>ジウム6          | 就労に制約がある労働者に対する支援                                         |
| シンポ<br>ジウム7          | がんと就労支援 ～医療現場と職場・ど<br>うつなげるか～【近畿医部会協賛企画】                  |
| シンポ<br>ジウム8<br>(公募)  | あなたの事業所では、非正規雇用労働者<br>の健康管理はどうなっていますか?                    |
| シンポ<br>ジウム9          | それでもタバコを吸わせませんか                                           |
| シンポ<br>ジウム10<br>(公募) | データヘルス ～効率的な保健事業やコ<br>ラボヘルスの実態～                           |
| シンポ<br>ジウム11         | 2020年の健康経営を考える                                            |

#### 【教育講演】

|       |                                                       |
|-------|-------------------------------------------------------|
| 教育講演1 | 科学的根拠に基づくメンタルヘルス不調の1次予防                               |
| 教育講演2 | 化学物質による健康障害 ～症例、疫学、動物実験から～                            |
| 教育講演3 | 遺伝子検査                                                 |
| 教育講演4 | 受動から能動のメンタルヘルスへ: e-learningを用いた自習型認知行動療法(CBT)の現状と産業応用 |
| 教育講演5 | グローバル化時代の感染症とその対策                                     |
| 教育講演6 | メンタルヘルス不調のup-to-date                                  |
| 教育講演7 | 安全衛生行政の課題                                             |

#### 【実地研修】

|                                               |                                     |
|-----------------------------------------------|-------------------------------------|
| 事業所研修 9月8日(木) 午後                              |                                     |
| 美十(おたべ)、トーププリンティングサービス、積水化学京都研究所、京都機械工具、びわこ学園 |                                     |
| 会場内研修 9月9日(金)～9月10日(土)                        |                                     |
| 産 業 医                                         | A 労働安全衛生保護具を学ぶ                      |
|                                               | B 化学物質のリスクアセスメントとしてのコントロールバンディングの応用 |
|                                               | C 作業環境測定評価と簡易測定機器の応用                |
| 看 護                                           | D 知りたい! 作業環境測定から評価の仕方と改善まで          |
|                                               | E 知りたい! 職場巡視のポイント ～人間工学的視点から～       |

ホームページ <http://www.c-linkage.co.jp/ncopn26/>で最新の情報をご確認ください。



# 変革期を迎えての 産業保健の協働

## 第26回日本 産業衛生学会 全国協議会

2016年  
9月8日[木]～10日[土]

会場 京都テルサ

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70番地

# KYOTO

企画運営委員長：久保田 昌詞  
(大阪労災病院  
治療就労両立支援センター)

運営実行委員長：中西 一郎  
(東レ株式会社 滋賀事業場  
健康管理センター)

運営事務局

株式会社コンベンションリンケージ内 〒604-8162 京都市中京区烏丸通六角下る七軒音町634  
TEL:075-231-6357 / FAX:075-231-6354 E-mail:ncopn26@c-linkage.co.jp

<http://www.c-linkage.co.jp/ncopn26/>



## 第20回 産業医プロフェッショナルコース



## 『開催報告』

企画運営委員長 浜口 伝 博

平成28年2月13日(土)～2月14日(日)の2日間にわたり、研修テーマ「企業の人財戦略に産業医はどうかかわるか? ～CHO(Chief Health Officer)への第一歩～」が行われました。会場はあざみ野駅(渋谷から約20分)から歩いてほど近いMELONDIA。テーマはプロフェッショナルコース開催以来の初めて扱う“人財”です。産業医学の運営技能とは直接的にはつながらない畑の違う概念であることから、企画段階では参加者数に心配もありましたが、結果は定員(50名)を超えるお申し込みをいただき、主催者としては先生方のご熱心さに深く感動した次第でした。

産業構造が第三次産業化の変化を続け、グローバル化やダイバーシティ、働き方やワークライフバランスがますます見直される産業社会において、これからの産業医活動のあり様や産業医の位置付けが、「これまで」の延長線上に「これから」を想定できる時代ではなくなりつつあります。これまでの健康管理ノウハウや管理技術からいったん離れて、「人財維持」「人財管理」「人財育成」という観点の視野を広げておく必要も迫っています。そこで今回の企画は、健康管理活動を人財管理活動に転換していくことの時代性を理解することを目指しました。その意味で、講師の先生方による説得力のある講演内容や具体的な質疑応答、ロールプレイは、参加者の皆さんに印象深く残ったことと思います。



初日は、「健康経営」とこれからの産業保健の方向性を概観していただく必要から、経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課(課長)江崎禎英氏に講演「健康経営と産業医との協業を展望する」をしていただくことができました。現役の本省課長によるご出講も今回が初めてです。講演は、国内医療の分析、医療費の実情からはじまり、課題解決のための施策とこれからの行政方針、具体的な活動事例など幅広く紹介され、ユーモアとエピソードをたくみにはさんでの軽快な話しぶりはあっという間の1時間でした。「健康経営」における産業医の大切さ、CHOへの期待も伝わりました。また同課長のご厚意により、講演で使用されたファイルは全部そのままを全参加者にご提供いただけることとなり、参加者も思わぬプレゼントに喜びました。

その後のシンポジウム「労働災害医学から産業健康医学への展開」では、森 晃爾氏(産業医科大学産業保健経営学研究室教授)、岡田邦夫氏(大阪ガスグループ統括産業医)、小山一郎氏(旭化成(株)統括



産業医)の3氏が登壇し、産業医学／健康経営／産業医実践との視点から専門的な解説や先行事例の紹介をいただきました。その後、仮想企業の健康管理データを使って課題の抽出やこれからの健康管理施策を練るグループワークを実施し、その後に、グループ代表者と先のシンポジストたち(会社幹部役)による問答形式のロールプレイを行

いました。社長役や幹部役となったシンポジストからの鋭い質問に、代表弁士たちも必死に回答を行いながら施策構築の要点を理解したようでした。

2日目は、健康経営研究会理事長でもある岡田邦夫氏から「健康経営とメンタルヘルス対策(ストレスチェックの運用と活用法を含む)」の講演をいただき、それを受けて、グループワークとして課題「メンタルヘルス対策の一環としてのストレスチェック活用術」「健康経営視点からの評価指標について」に取り組みました。その後にグループ代表者と岡田先生との壇上バトルが再度行われ、課題解決に向けて楽しくかつ実践的な意見交換をすることができました。

初日研修後に行われた懇親パーティにはほぼ全員がご参加下さり、互いに親しく交流することができました。リピーターの多いのが当コースの特徴でもあります、それは全国で活動する産業医間のネットワークが着実に強まっていることを示しているように感じます。皆さんも是非ご参加ください。優秀な講師と暖かいスタッフ、同じ悩みと同じ気概を持つ全国の産業医たちには是非会いに来てください。待っています。

## 『第20回 産業医プロフェッショナルコース 参加体験記』



旭硝子株式会社 京浜工場

産業医 宮本 輝和

今年の研修テーマは『企業の人財戦略に産業医はどうかかわるか?』～CHO(Chief Health Officer)への第一歩～でした。

1日目は初めに経済産業省ヘルスケア産業課長、江崎禎英先生の講義がありました。

健康経営が注目されるのは、その背景や目的に高齢化、医療費の増大、健康寿命の延伸、あるべき医療費・介護費の実現、医療産業の活性化、保健事業の補完・充実、があること、メディアの反響も大きく、健康経営銘柄は、就職先の「ホワイト or ブラック」の判断の拠り所になり、選定企業の株価はTOPIXを上回る水準で推移している、今後は中小企業にも広げること、などを学びました。最後に話された「人間の欲望の延長線上で健康を造る。健康が目的ではない。健康であればもっとよい。」との言葉が印象に残りました。我々が労働衛生分野以外で行政の話を聴く機会は滅多にないですが、今回は貴重な時間を頂きました。森晃爾先生、岡田邦夫先生、小山一郎先生がご登壇されたシンポジウムでは労働衛生の第一線で指導されている先生方より健康経営に関わる体制・指標・人財管理・健康投資・産業保健との連携などを学びました。グループワーク(GW)では架空の会社の健康白書から課題を見つけ、健康施策について社長(岡田先生)をはじめご登壇された先生方を経営陣に見立ててプレゼンをするという、選ばれた班は大変に貴重な体験をしました。

懇親会では講師・運営スタッフの先生方も含め、多くの先生方とお話をして、輪を広げることが出来ました。

2日目は岡田先生の「健康経営とメンタルヘルス対策」の講義でストレスチェック制度との関連も含めて学びました。GWでは健康経営・人財戦略の観点からストレスチェックをどう位置付けて活用するかをグループ内で論議しました。私も含め現時点でストレスチェックを実施していない事業場の産業医の先生が殆どでしたが、皆さんが趣旨や目的について理解し的確な意見を述べていました。

従業員が健康で働くことができる環境が整えられ、生産性が上がり、利益を生み、企業価値が上がり、従業員の満足度が上昇し、社会的な評価を得られ、優良な投資先となり、利益が従業員の健康に再投資されるサイクルになることが理想だと思います。「Officer」を辞書で調べてみると将校、士官、警官、船長、役員などの意味があるようです。産業医が企業に身を置く医師としてその地位や価値を高めていくには、「Officer」にはなれなくても、法的要求事項のみならず、健康経営に積極的に関わっていかなければならない時代になるような気がしています。Pコース参加は、ともすれば自己完結型の業務をしがちな私が、知識を得、GWで多様な考え方を学び、さらに精進せねばと刺激を受けるよい機会となりました。あらためて浜口伝博先生をはじめ、運営・実行スタッフの先生方に大いなる感謝を致します。



## 『第20回 産業医プロフェッショナルコース 参加体験記』



住友電装(株) 四日市製作所

産業医 岩崎 明 実

皆さん、こんにちは。私は、「ワイヤーハーネス」という自動車部品を製造している会社の専属産業医をしています。入社して4年が過ぎようとしていますが、この産業医プロフェッショナルコースも4回目の参加となりました。毎回、密度の濃い内容でクタクタになりますが、得るものが多く貴重な研修会となっております。

今回のテーマである『企業の人財戦略に産業医はどうかかわるか?』を目にしたとき、今年は壮大なテーマだと思いながら、自分の産業医活動を見直す良い機会と思い、参加申し込みをしました。案の定、内容はハイレベルでした。経済産業省が産業保健に対しどのような視点を持っているのか全く知る由もなく、どんな風に紐づくのかを知ることができて大変良かったです。経済効果を上げるため、生涯現役社会を目指すために、我々産業医が労働者に対してできることを進めていければと思いました。また、世間で耳にするけれども、詳細をわかっていなかった健康経営についても、第一人者の先生方からご講演をいただきました。今まで知らなかったことや、自分が考えていたことと違う発想もあり、とても勉強になりました。実務に追われ、健康経営についての知識がなかった私にはうってつけの時間でした。また、毎年恒例のグループワークでは、それぞれの先生の様々な意見が聞けましたし、今年は、壇上でのロールプレイがとても興味深かった(楽しかった)です。講師の先生方が幹部役で、各グループから選抜された先生が幹部にプレゼンする産業医役になりロールプレイが行われました。私は、フロアにただで壇上に上がっていないので、壇上に上がっていた先生方は大変だったと思いますが、社長役の講師の先生の数々の発言に驚かされました。「経営層はそう考えるのか」ということを知ることができました。今後の産業医活動にうまく取り入れていければと思います。

この研修会は、普段接することのできない方々が講師となられており、また日本各地で産業医をされている先生方と知り合える場にもなっております。私の中では有意義な研修会であり、次回も楽しみにしております。



**第21回 産業医プロフェッショナルコース開催のお知らせ**

主催 日本産業衛生学会 産業医部会

後援 財団法人労働衛生会館

企画運営委員長 浜 口 伝 博

実行委員長 塚 原 照 臣

本コースは、産業医の実務に役に立つタイムリーな話題提供を通して実務に役立つ産業医技能の獲得を目指す研修プログラムです。受講者からは内容に対して毎回高い評価をいただいております、かつ参加された受講者間のネットワークができることも魅力の一つになっています。参加は、専属産業医、嘱託産業医を問いません。意欲のある産業医をお待ちしています。

1. 研修テーマ：多様性社会における合理的配慮とは？

2. 開催日：2017年1月21日(土)～1月22日(日)

3. 会場：MELONDIA あざみ野(あざみ野駅徒歩5分)

〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川1-1-9

Tel : 045-909-1790 Fax : 045-909-1789

[https://www.yutolife.com/user/mrs/azamino\\_dm0912/map.html](https://www.yutolife.com/user/mrs/azamino_dm0912/map.html)

あざみ野駅(横浜市営地下鉄)、あざみ野駅(東急田園都市線)

羽田空港より隣駅「たまプラーザ(田園都市線)」駅までの直行バスもあります。

## 4. 内容

ー 1 日目(1/21)ー 13:00-18:00

## I. シンポジウム

- |                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| 1) 障害者差別禁止指針と合理的配慮指針  | 桑 原 斉 (東京大学バリアフリー支援室) |
| 2) 両立支援と合理的配慮         | 遠 藤 源 樹 (東京女子医大)      |
| 3) 精神障害(含：発達障害)と合理的配慮 | 塚 本 浩 二 (㈱東京ガス)       |
| 4) LGBTと合理的配慮         | 外 山 雄 太 (株式会社Letibee) |

## II. テーマ別自由討議

- ・シンポジストを選んで座談会形式での討議と懇談(入替え1回)

ー 情報交換会(懇親会)ー

ー 2 日目(1/22)ー 9:00-12:00

## III. グループワーク

- 1) ハイライト発表(前日の自由討議内容をコーディネイターから発表)
- 2) 発表を受けて各グループで検討と情報整理

## IV. 産業保健と合理的配慮『義務』の関係を考える～従来の関係判例を素材として～

三 柴 丈 典(近畿大学)

5. 募集人数: 50名

6. 受講料: 日本産業衛生学会産業医部会員 20,000円(2日間コース)

日本産業衛生学会会員(医師) 25,000円(2日間コース)

7. 受講修了者には修了証を産業医部会長名にて発行致します。

8. 申込方法等: 次ページ「参加申込書」を作成しFAXしてください。

1) 資格: 産業医部会員の有無を選択してください。

2) 連絡先を記載: 氏名、住所(参加確定後に書類等の送付先になります)、電話番号/FAX/メールアドレス(すべてご記入下さい。以降の事務連絡先となります)

3) 宿泊: 研修会場にて宿泊をすることが出来ます(個数限定のため先着受付となります)。

シングル: ¥10,000(税込、朝食付き、全室禁煙)。ご希望の方は「宿泊希望」をご記入下さい。

4) 情報交換会(懇親会): 初日プログラム終了後、パーティ形式の懇親会を行います。

担当講師、運営スタッフも参加しますので議論や懇親を深めることができます。参加ご希望の有無をご記載下さい。参加費用は¥5,000(コース受講料とは別)。

5) 申し込み先事務局: FAXでお申し込み下さい。

「(株)ヒューマン・リサーチ内 産業医プロフェッショナルコース事務局」

FAX 03-3358-4002

〒160-0011 東京都新宿区若葉2-5-16 向井ビル3F

(株)ヒューマン・リサーチ TEL 03-3358-4001

## 9. 応募の開始と締切

- ・応募開始(先着順受付とさせていただきますのでご了承ください)

産業医部会員 2016年11月1日(火) 9:00から

非部会員(医師かつ学会員が必要) 2016年11月7日(月) 9:00から

- ・応募締切(部会員/非部会員を問わず) 2016年11月14日(月) 17:00まで

ア) 応募締切後、参加決定者には事務局より受講料振込み等の必要書類を郵送致します。

イ) お振込みいただく金額は、受講料、情報交換会費(希望者)、宿泊費(希望者)となります。

ウ) 2016年11月28日(月)を過ぎても事務局から連絡がない場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

## 10. 補足

- 1) 産業医プロフェッショナルコースは「産業衛生学会専門医制度委員会」と連携しています。本コースは専門医研修中の先生方に対する教育コースに認定されておりますので、受講実績は研修単位(専門医の場合は指導医への認定単位)として認可されます。
- 2) 産業医プロフェッショナルコースは、日本医師会認定産業医単位の発行はしておりませんのでご注意ください。



----- ( 切り取り ) -----

日本産業衛生学会

産業医Pコース事務局行

(FAX : 03-3358-4002)

申込日      月      日

日本産業衛生学会 産業医部会  
産業医プロフェッショナルコース参加申込書

|                        |                                                                                                                                                       |
|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コ ー ス 名                | 多様性社会における合理的配慮とは？                                                                                                                                     |
| 氏 名                    | フリガナ<br>( )                                                                                                                                           |
| 産業医部会員の<br>有 無         | ① 産業医部会員 (      地方会所属 )      ② 非産業医部会員                                                                                                                |
| 連 絡 先<br>(書類等の送り先)     | ( 自 宅 ・ 勤務先 )<br>〒      ー<br><br>日中つながる番号をお書きください。<br>TEL :      FAX :<br>わかりやすくお書きください。<br>e-mail :<br>_____                                         |
| 情 報 交 換 会<br>( 懇 親 会 ) | ① 参加する      ② 参加しない                                                                                                                                   |
| 宿 泊 希 望<br>( 研修会場内 )   | ① 希望する      ② 希望しない                                                                                                                                   |
| 備 考 (費用)               | 1. 受講料<br>・ 産業医部会員      20,000円<br>・ 非部会員 (学会員かつ医師)      25,000円<br>2. 情報交換会 (懇親会)      5,000円 (希望者のみ)<br>3. 宿泊 (朝食付き、シングル、全室禁煙)      10,000円 (希望者のみ) |
| 連 絡 事 項                |                                                                                                                                                       |

**第89回 日本産業衛生学会 産業医フォーラムのご報告**

担当 東北地方会幹事 色 川 俊 也  
関東地方会幹事 福 本 正 勝

日 時：2016年5月27日(金) 15:00～17:00

会 場：福島県文化センター 大ホール

テーマ：産業医と精神科医の連携

例年のように、学会最終日の午後、産業医部会総会に続いて、産業医フォーラムを開催させていただきました。

ストレスチェック制度が施行され、産業医は職場のメンタルヘルス対策の中心を担うべき立場となりましたが、精神科を専門としない産業医の場合、高い専門性を要する複雑な事例に対応するためには、精神科医との連携が不可欠であると思われます。産業医と精神科医の連携が、これまで以上に重要になってくることが予想されます。

今回のシンポジウムでは、精神科を専門としない専属産業医の立場から、TDK(株)秋田総務部健康管理センターの工藤康嗣先生には、これまで経験された精神科医との連携での成功事例、失敗事例を複数紹介していただきました。又、同じく嘱託産業医の立場から、産業医事務所花京院健康管理センター所長の清治邦章先生には、これまでの活動を通じて感じている産業医と精神科医の連携のあり方について、先生のお考えをまとめていただきました。一方、精神科を専門とする立場から、産業医としてもご活躍されている(医)弘富会神田東クリニック院長の高野知樹先生から、精神科医側からみた産業医との連携の現状と問題点、今後のあり方などについてご講演をいただきました。そして最後に、産業医・精神科医も含めた職域の精神医療の連携を研究する立場から、産業医科大学産業生態科学研究所精神保健学教授の廣尚典先生には産業医と精神科医の連携に期待されるものと連携の課題について、先生の教室で実施された産業医と精神科医の連携に関する調査結果も御紹介いただきながらご講演をいただきました。約50名の皆様ご参加いただきましたが、各々の立場の理解を深め、現在の連携における問題点や、今後良好で円滑な連携を行うのに留意すべき点や具体的方法について整理する意味では大変有意義な意見交換を行うことができたと感じております。互いの良好な連携の元に職場のメンタルヘルス対策の難題に取り組んでいくことを意識づける良い機会になったのではないかと考えております。演者の先生方をはじめ、フォーラムにご参加いただきました皆様に深く御礼申し上げます。



## 『第89回 日本産業衛生学会 産業医部会フォーラム参加体験記』



東日本旅客鉄道株式会社

JR仙台病院 健康管理センター 竹 澤 公 子

今回の産業医部会フォーラムは、「産業医と精神科医の連携」というテーマで開催されました。法改正によりストレスチェック制度が施行され、近年、メンタルヘルス対策は企業の大きな課題であり、精神科医と連携する機会も、以前よりも増えている印象があります。

演者として4名の先生がご講演されました。まず“専属産業医の立場から”としてTDK(株) 工藤康嗣先生から、ご自身が経験された8名の事例に関して、社内の復職支援制度の活用と精神科医との連携を交えながらお話いただきました。メンタルヘルスのモデル事業、復職支援のモデル事業として、社内制度を整備されました。連携する上で社内制度が確立されているとスムーズに進むと感じる内容でした。“嘱託産業医の立場から”として産業医事務所花京院健康管理センター・清治邦章先生から、産業保健から精神科医への意見という内容で、職場情報や病状把握、診断書の記載内容などにおいて情報共有が重要であり、お互いの立場・役割(嘱託産業医は調整、精神科医は診断・治療)を明確にすることで、事業所の混乱を防ぐこともできるのではないかと、経験事例をもとにお話がありました。“精神科医の立場から”として神田東クリニック 高野知樹先生から、休復職の判定は外来での判断が難しい場合があり、復職という同じ目的に向かって産業医・精神科医の連携が必須であり、良質な連携の成立に必要な3要素(双方向性、連続性、随時性)について詳しくお話いただきました。また連携には手間と労力がかかるため、その対価に関するシステム構築が必要であるとのご意見もありました。“職域と精神医療の連携を研究する立場から”として産業医科大学精神保健学教授・廣尚典先生から、3つの調査に関しご紹介いただき、産業医に対する調査では、精神科主治医と連携を試みた事例が20%であり、連携している例が少ない実態も明らかになりました。精神科医に対する調査では、情報提供書として回答しやすいものは、情報開示先や情報の活用方法、個人情報の保護について記載があると返信しやすい、また産業医に望むこととして、精神科医療の現状や精神科医の考え方を理解してほしいという項目が上位にありました。調査結果より実状や考えを知ることが連携の糸口になると感じました。

今後ますます精神科医との連携が必要となっていくことが予想されます。一方向のやり取りではなく、双方向性の関係性を築いていくことが良好な連携につながる、これまでの自分の対応を振り返る機会となり、大変興味深く聴講させていただきました。ありがとうございました。



## シリーズ 私たち頑張っています！

## 『学会専門医制度と産業医のネットワーク』



(北海道地方会)

札幌医科大学医療人育成センター教育開発研究部門

佐藤 利夫

北海道地方会の機関誌「北方産業衛生」第53号(2016年2月)に、「嘱託産業医と日本産業衛生学会専門医制度」と題する拙文を掲載させていただきました。本稿では、同じテーマで若干趣向を変えた内容を書くことにいたします。

私は2010年9月から1年がかりで道内各地の日本医師会認定産業医研修会を受講して基礎研修単位を取得し、2012年2月に日医認定産業医の認定証を手に入れました。資格には実務経験が伴う必要があると考え、勤務校の公衆衛生学講座の教授に相談したところ、千歳市内の製造業の事業場2か所を紹介していただき、2012年4月から出務を始めました。現在まで4年あまり続けていますが、いずれの事業場も企業としての産業保健体制が確立し、産業保健スタッフも優秀です。振り返ってみると「かけだし産業医」として学べるところが大きく、非常に幸運だったと思います。

資質向上のための継続的な自己研鑽としては、日医認定産業医制度の生涯研修があります。それだけでは足りないと感じたことから、日本産業衛生学会の専門医制度にチャレンジすることにしました。そのころ学会の専門医制度が切り替わり、まず専攻医登録してから実務研修を登録施設で受けるという流れになりました。第2回専攻医資格認定試験(2012年2月)に合格してから研修施設探しを始め、勤務校の公衆衛生学講座の教授にお願いして同講座を「産業衛生教育・情報提供型施設」に登録していただき、私が出務している事業場を「研修協力施設」として登録することになりました。幸いなことに従事先の一つが、その企業の統括産業医をしておられる先生のご高配により事業場を施設登録していただけることになり、実務研修期間を開始して現在に至っています。

実のところ専門医制度の実務研修を始める過程では、多少の困難がなかったわけではありません。比較的順調に開始して継続できたのは、意図せぬうちに、さまざまなネットワークに乗ることができたからではないかという気がします。

産業医部会主催の「産業医プロフェッショナルコース」という研修プログラムがあります。2015年2月に受講してわかったのは、受講者間で力強いネットワークが形成されていることです。このようなネットワークこそが、産業医部会の活力の源泉になっているのではないのでしょうか。大きく広げて、各地で行われている産業医活動を支援していきましょう。

## 『非常勤産業医の楽しさ』



(北陸甲信越地方会)

清風台クリニック

松 永 康 弘

産業医歴も短く、非常勤産業医の経験しかない私が、このような機会を与えていただき、誠に光栄で身も引き締まる思いです。

外科医として病院勤務中に産業医を修得。開業後、産業医活動を再開し、県産業保健推進センター(当時)への相談を契機に、「労働衛生コンサルタント」への道が開けました。コンサルタント活動では、産業医が殆どの衛生の方々だけでなく、安全の方たちとの交流や研修・共同業務により私の視野が大きく広がっています。産業医としては、10年以上の事業場等6社の非常勤産業医を承っています。規模は50名未満から600名余り、職種は製造業・サービス業などです。有害作業での問題解決や初めての産業医として産業保健体制の新規の構築に関われた醍醐味はとても満足感が大きいです。社内禁煙活動、長時間労働への対策、産業保健師との連携によるメンタル不調者自体の減少と長期休職者への復職支援の充実など、地味ですが重要な活動です。今年は、ストレスチェックテストが最大の課題ですが、新たなチャレンジは大いなる楽しみです。産業保健師や専門部署などの恵まれた環境の事業場から衛生管理者が一人で頑張っておられる事業場まで、事情はそれぞれですが、労働衛生スタッフの強力なバックアップのおかげで、時間も活動も不十分な非常勤産業医でも、楽しみながら務めてさせていただいています。産業医関連としては、他に、県産業保健総合支援センターの相談員としての講演や研究、地域産業保健センターの登録産業医として50人未満の事業場の面接などもあります。普段の開業医とは異なる産業医活動は、私自身の良き気分転換になっており、何よりも産業医活動で出来てくる人の輪が今の私の宝になっております。医療関係者は基より、医療以外の方々とのお付き合いは、自分の世界と見識を大きく広げ、人生を豊かにしてくれています。産業医としての予防医学的な視点は、本業の開業医としての診療の場でも生活者の大部分の時間を占める仕事を含めた生活指導に生かして大きく役立っています。指導者に恵まれ、地方会や全国協議会での発表、更には、専門医を目指し、研修中です。大学関係者には学問的な裏付けと体系的な面で、専属産業医には先進的な試みや多数の従業員を管理しておられる豊富なご経験の面で、ご指導・ご教授を賜ると、非常勤産業医としては得がたいものであり、特にありがたいと思います。

## 『人生いろいろ、産業医の仕事は楽しくWIN-WINで！』

～ 第二の人生を頑張っている元専属産業医 ～



(中国地方会)

THPオフィス島根代表

労働衛生コンサルタント・嘱託産業医 春 木 宥 子

NTT西日本の専属産業医を25年勤め、現在は嘱託産業医として活動しています。生活のメインは嘱託契約職員(松江記念病院健康支援センター顧問・年俸契約)で、今は通院ドックは火曜日のみを担当、午後診の禁煙外来2日、嘱託産業医はリコー(株)島根支社をはじめ6事業所を病院契約の仕事として行っています。病院とは別に個人的に引き受けているのが島根労働局を含め、現在3事業所の嘱託産業医です。松江市内ばかりではありませんので、月1回の職場巡回相談、安全衛生委員会出席となると、結構に忙しいです。

そのほかに、(一法)日本労働安全衛生コンサルタント会理事・島根支部長としては、職場診断に加えて今年の中四国総会を担当します。島根産業保健総合支援センターの運営協議会委員で基幹相談員もしていますので、産業医研修会の講師、島根労働基準協会の講師などもしています。昨年、県央保健所主催のセミナーで「健康経営」をテーマに講演し、先日は島根経営者協会主催の職場定着セミナーでも、テーマ「今話題の健康経営とは? ～社員がいきいきと働く企業～」で講演しました。アンケート結果では、「これから取組みたい!」、「重要性がよく理解できた」などの意見が多く、とても好評だったようで嬉しい限りです。

禁煙外来や職場巡回訪問は、病院の保健師さん達(療養指導課所属)と一緒にやっていますが、それぞれに熱意を持って取組んでいて、支援の楽しさを共有しています。時には会社のレクと一緒に参加し、普段は見られない社員の一面を見たり、より交流を深めたりします。

職場の受動喫煙対策・禁煙支援にも力を入れていて、個別面談や安全衛生委員会でミニレクチャーしたり、依頼された企業の安全衛生週間で講演したり。10年前にはボランティアの会「しまね子どもをたばこから守る会」を組織しましたので、松江市で開催される健康フェアなど健康関連のイベントにはブースの提供を受け、パネル展示と共に呼気CO測定、健康相談を行い、また島根県安全衛生大会や成人式の会場ロビーではパネル展示やチラシの配布・喫煙アンケート調査し、喫煙に関する啓発活動をメンバーと楽しく行っています。

先般中国地方会ニュース・トピックスに掲載して頂いた「職場の受動喫煙ゼロを達成した企業」は、リスク管理を実践し健康経営に取り組んでいる成果で、まさにWIN-WINでした。毎年開催している禁煙支援研修会は今年で9回目ですが、ここでも発表予定です。好事例をしっかりと活用して、良い輪が広がっていくよう、頑張っています!



「働く人の健康づくり講座」での講演(県川本合同庁舎)

昨今、ストレスチェック対応依頼あり、周囲のお勧めもあり、会社を立ち上げました。



**(新)シリーズ はじめまして！****(関東地方会)**

みずほ健康保険組合 内幸町健康開発センター

**産業医 戸津崎 貴文**

産業医部会の先生方、初めまして。みずほ健康保険組合でみずほフィナンシャルグループの産業医をしております。戸津崎と申します。この度は貴重な誌面、且つ新規連載のトップバッターを御指名いただき、誠に恐縮です。貴重な機会をいただいた編集長の谷山佳津子先生に厚く御礼申し上げます。

この度、産業医部会に入会させていただいたのですが、日本産業衛生学会員16年、専門医資格も指導医資格もいただいておりますが、これまで産業医部会に入会していなかった事、猛省しております。新入会員というのは恥ずかしい所ではございますが、自己紹介を兼ねて誌面をお借り致します。

小職は2000年に産業医大を卒業し、臨床研修修了後、新日本製鐵君津製鐵所(現新日鐵住金)の宮本先生の下、産業医の研修を受け、産業医大作業病態学研究室(現作業関連疾患予防学)で東先生の下、指導を受け、2005年より、現職にて産業医として活動しております。現職では新日鐵で勉強させていただいた有害業務は皆無なサービス業ではありますが、労働衛生、産業保健の基本は同じであり、同じ姿勢、同じ意識を持って日々尽力しております。

産業医部会の活動はサボってしまっておりましたが、学会活動はサボらず研鑽を心がけて参りました。大したものではありませんが、1つお話できるものとして学会発表があります。新日鐵時代に参加した2003年の山口での学会以降、今年の福島学会まで、14年連続、学会発表を果たしております。「学会に参加するなら発表して当たり前」とお叱りを受けるかもしれませんが、事業場で産業医業務を行いながら、限られた資源の中、学会発表を行う事はなかなか頑張りが必要で、抄録の締切日の延長に助けていただいた年も多々ございます。しかし小職自身、産業保健の現場にいる産業医が「科学的根拠に貢献する」という意識を持って情報を発信していく事は責務だと考えております。産業保健の最前線にいる我々が新たな問題、新たな解決策に気づき、発信し、研究職の先生方のお力を借りて科学的根拠としていただく。現場にいるからこそ気付けるものもあるのではないかと。

しかし科学的根拠として残す知識は乏しいものがあり、研究職の先生方のお力なくしては進められません。抄録集や学会会場で「これは」というものにお気づきの点がございましたら、御指導いただけましたら幸いです。今後も御指導の程、宜しくお願い申し上げます。

## 地方会からの報告



## 『北海道地方会産業保健研修会 参加体験記』

北海道教育大学保健管理センター

羽 賀 将 衛

北海道地方会では、産業医・産業看護・産業衛生技術・産業歯科保健部会の合同研修会を毎年3月に開催していますが、今回から名称を「産業保健研修会」に改め、平成28年3月5日に開催しました。

まず、北海道産業保健総合支援センターの丹羽裕彰副所長が「最近の労働衛生行政について 過労死等の防止対策」と題して、長時間労働その他の過重労働の現状を話された後、メンタルヘルス対策、安全配慮義務の遵守、啓発活動等、今後の諸課題について示されました。私は、大学の保健管理センターに勤務しているのですが、裁量労働制である教員の労務時間が、事務職員の様にきちんと把握・管理されていないことに常日ごろから不安を感じており、実際に、過重労働の影響が否定できない有害事例が発生しています。「管理」という言葉に異常なほどに反発する教員が少なくない現状で、いかにして教員の過重労働を防止するか、喫緊の課題であると考えます。

続いて、札幌心身医療研究所の久村正也所長から「ストレスチェックを知る 制度制定の背景と概要」と題して、ストレスチェックを実施するうえで理解しておくべき様々な事柄について、具体的な解説をいただきました。多くの関係者が不安を抱えたままで実施されることになりましたが、まずは今年中に実施してみて、その結果を検証して問題点を明らかにし、これからの実施、運用の改善に活かして行くことが大事だと思います。

最後に、北海道大学の岸 玲子特別招へい教授が「チームで進めるこれからの産業保健サービスのあり方 日本産業衛生学会政策法制度委員会提言より」と題した講演をされ、日本における労働者を取り巻く環境はいまだ劣悪であり、ILO条約の未批准といった従前から続いている問題に加えて、非正規労働者やワーキングプアの増加など、新たな問題が深刻化している状況が示されました。労働者の健康被害としては、最近でも、特定の化学物質による胆管癌や膀胱癌の発生が相次いで明らかになっていますが、他の身体疾患やメンタル不調も含めて、特殊健診等で発見する以前に、一次予防に力点を置き、まずは有害事象の防止が必要であるというお話が印象に残りました。



丹羽裕彰副所長



久村正也先生



岸 玲子教授

## 『関東地方会産業医部会研修会 参加体験記』

～ 「ストレスチェック」が産業医のストレスにならないために ～

株式会社フジ・メディア・ホールディングス  
統括産業医 大 原 博 美

2016年2月20日(土) 産業医部会主催研修会(兼 第272回関東地方会例会、於 東京慈恵会医科大学)に参加しました。テーマはずばり「ストレスチェックの実践」。ストレスチェックに初めて取り組み、実施がこれからの産業医にとって、今回の研修はたいへんタイムリーで、冷たい雨が降る中、会場いっぱい集まった先生方からは熱気が感じられました。

はじめに、西埜植規秀先生(にしのうえ産業医事務所所長)から「ストレスチェック総論」ということで、実施までの流れ、面接指導の方法について、対策時の具体的な留意点などを伺いました。このたびの制度は、産業医個人の責任を問われるような性格のものではないものの、それだからこそ、受検・面接勧奨や、事後措置・職場環境の改善など、産業医が積極的にかかわっていくことの大切さを改めて知らされました。

次に深澤健二先生(株式会社アドバンテッジ リスクマネジメント メディカルアドバイザー)から「ストレスチェックの事例より」として、これまで先生がかかわってこられた事例を基に、産業医、事業者、実施者それぞれの立場の課題について説明がありました。特に、症例提示は、医師面接の結果からその後の措置までが具体的で、今後の面接指導の参考になりました。

3番目に、増田将史先生(イオン株式会社グループ人事部 イオングループ統括産業医)から「ストレスチェック～法的側面から」について、制度の解釈や制度のすきまに踏み込んだお話がありました。中でも、事業者への結果提供の同意取得についてはその方法とタイミング、高ストレス者の判定と面接指導の可否についてはその判断と根拠について、これまでの疑問がかなり解消される内容でした。

最後に質疑・討論が行われました。多くの先生方が、これから行うストレスチェックに向けてかなり細かいところまで熱心に質問しておられました。

ストレスチェック制度では、その「義務化」というところにばかり目がいていましたが、この研修で、「一次予防であるメンタルヘルス不調の未然防止が目的である」ということを再認識することができ、実践的なお話を伺うことで、自分に取り組むべき課題がはっきりしました。そして、初めから完璧を目指すのではなく、事業者へ結果提供の同意がない高ストレス者や、高ストレスではない者にも、面接を希望すれば相談できる窓口を設けるなど、会社全体でメンタルヘルスに対して意識を高めていくことが重要であるというお話を伺うことができたのは、今後、ストレスチェック制度に対応していく上での拠りどころとなりました。

最後になりますが、ご講演いただきました先生方、研修を計画してくださいました関係者の皆様に感謝申し上げます。





## 『東海地方会 産業医部会懇話会 参加体験記』

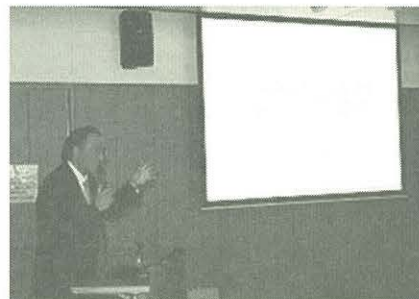
本田技研工業(株) 浜松健康管理センター

足立 留美子

## 【第1部：産業医に知っておいてもらいたい先端医学(兵庫医大先端医学研究所 後藤章暢先生)】

1995年1月阪神・淡路大震災が発生しました。その後、神戸の復興のため、神戸は医療産業都市を目指します。現在、ポートアイランドには先端医療センター、理化学研究所、スーパーコンピューター「京」、その他先端医療を担う施設や医療関連企業が300社以上集まり大規模なバイオメディカルクラスターが形成されています。後藤先生は、その構想の段階から尽力され、日本初の「バイオメディカルクラスター」が形成するまでの貴重なご経験に基づき、医療における戦略の重要性についてご講演されました。そして、「21世紀の産業医のためにも医療を活用した戦略が重要」であることを強調されました。

昨今、産業保健を取り巻く環境は大きく変化しています。「健康経営」という言葉も耳馴れてきた今、産業医も企業の経営に関わる健康戦略(グランドデザイン)をたてることを期待されているように感じます。今回の後藤先生のご講演は、私たち現場の産業医にとってタイムリーな内容で、大変興味深く拝聴しました。



## 【第2部：会員活動報告・討論】

第2部では、東海地方会の産業医から身近なご経験をご報告頂き、ざっくばらんに意見交換をしました。

報告1では、守田先生(新日鐵住金)から『男性産業医が育児休業を取得して考えたこと～男性育休と産業保健との関わり～』というテーマでご講演頂きました。男性産業医が企業において1ヶ月間の育休を取得するにあたりその準備から育休中の子育て奮闘ぶり、職場復帰までを実体験に基づきご講演されました。今後、このような事例がめずらしくなくなることを期待します。

報告2では、駒田先生(本田技研工業)から『転職して産業医として感じる事』というテーマでご講演頂きました。転職に際し、駒田先生は企業によって産業保健に対する考え方や取組みが大きく異なっていることを目の当たりにし、そのときの率直な思いを拝聴することができました。産業医の職務が拡大している昨今、企業によって求められる産業医像に違いがあることが、改めて実感しました。

報告3では、石川先生(三菱重工業)から『事業場における2度の心肺蘇生(同一)事例の考察』というテーマでご講演頂きました。



勤務中における同一従業員が4カ月間で2回心肺停止を起こした事例について、その経過を詳細にご説明頂き、事後措置の困難さと重要性を再認識することができました。また定年延長等により、さまざまな健康課題を抱えた労働者は増加傾向にある中、事業場における的確な救急対応の重要性が求められていることを感じました。

## 産業医部会、各地方会 行事開催予定一覧(平成 28 年 8 月～12 月)

| 開催<br>年月          | 産業医部会                             | 地方会            | 名称                                   | 日時・開催地                                                                                                             |
|-------------------|-----------------------------------|----------------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成<br>28 年<br>8 月 | 会報 第 58 号(平成 28 年 8 月号)発行予定       |                |                                      |                                                                                                                    |
|                   | 専門医制度関連                           |                | (日本産業衛生学会<br>専門医試験)                  | 平成 28 年 8 月 27 日(土)・ <del>29</del> <sup>28</sup> 日(日)<br>横浜オンワード総合研究所                                              |
|                   |                                   | 四国地方会          | 第 3 回四国地方会産<br>業医部会サマーセミ<br>ナーin 高知  | 平成 28 年 8 月 20 日(土)14:00～17:00<br>三翠園:高知市鷹匠町 1-3-35                                                                |
| 9 月               | 平成 28 年度 第 2 回幹事会                 |                |                                      | 平成 28 年 9 月 8 日(木)14:00～17:00<br>京都テルサ(京都府)                                                                        |
|                   | 第 26 回日本産業衛生学会 全国協議会              |                |                                      | 平成 28 年 9 月 8 日(木)・10 日(土)<br>14:00～17:00 京都テルサ(京都府)                                                               |
|                   | 第 26 回日本産業衛生学会 全国協議会<br>産業医部会自由集会 |                |                                      | 平成 28 年 9 月 8 日(木)17:30～19:30<br>京都テルサ西館第 2 会議室(京都府)                                                               |
|                   |                                   | 近畿地方会          | 近畿地方会<br>産業医部会研修会<br>(全国協議会<br>協賛企画) | 平成 28 年 9 月 10 日(土)15:50～17:20<br>京都テルサ第 26 回全国協議会第一会場<br>(京都府)                                                    |
| 10 月              |                                   | 北海道<br>地方会     | 平成 28 年度<br>北海道地方会総会                 | 平成 28 年 10 月 22 日(土)13:00～16:40<br>札幌市医師会館                                                                         |
| 11 月              |                                   | 中国地方会<br>四国地方会 | 第 60 回中国・四国<br>合同産業衛生学会              | 平成 28 年 11 月 26 日(土)                                                                                               |
|                   |                                   | 北陸甲信越<br>地方会   | 北陸甲信越地方会<br>産業医部会総会                  | 平成 28 年 <del>11</del> <sup>10</sup> 月 <del>28</del> <sup>23</sup> 日(土)14:00～16:00<br>福井市 ハビリン<br>※総会議事 11:30～12:00 |
| 12 月              | 会報 第 59 号(平成 28 年 12 月号)発行予定      |                |                                      |                                                                                                                    |
|                   |                                   | 関東地方会          | 関東地方会<br>産業医部会研修会                    | 平成 28 年 12 月 10 日(土)13:30～17:30<br>野村カンファレンスプラザ新宿 B&C                                                              |
|                   |                                   | 東海地方会          | 平成 28 年度<br>東海地方会<br>産業医部会懇話会        | 平成 28 年 12 月 17 日(土)14:00～17:30<br>(場所未定)<br>※その後懇親会あり。                                                            |

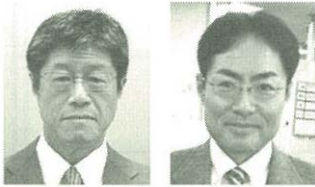


| 内容等                                                                                                                                                                                                                                                                      | その他                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験申請書類配布開始・・・4月1日～</li> <li>・資格審査受験申込受付期間・・・5月1日～5月31日</li> <li>・委員会の承認・・・7月上旬～中旬</li> <li>・受験資格審査結果と試験実施要領を本人へ通知・・・7月末日まで</li> <li>・資格認定試験の合格発表・・・9月2日(金)</li> <li>・専門医認定証交付式・・・9月10日(土)午前</li> </ul> <b>◎第26回日本産業衛生学会全国協議会</b> | <p>現行の日本産業衛生学会専門医試験は、平成28年度(2016年)が最終回となります。<br/>旧制度での研修中(旧制度手帳で研修中)の方は、今回受験下さい。</p>             |
| <p>テーマ 裁判事例から学ぶ、産業医の責任<br/>講師 矢野 公士 先生(矢野公士法律事務所・高知市)</p>                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                  |
| 2,3 ページ参照                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                  |
| <p>テーマ ストレスチェックをどう活かすか<br/>～職場環境改善のすすめ～<br/>話題提供 田畑正司 ((一財)石川県予防医学協会)<br/>彌富美奈子 (㈱SUMCO 健康管理センター)<br/>吉川透 ((独)労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所)<br/>司 会 齊藤恵 (日亜化学工業㈱環境安全本部健康管理センター)<br/>杉原由紀 (高知県庁職員厚生課)</p>                                                                         | 【定員】60名(当日自由参加)                                                                                  |
| <p>テーマ がんと就労支援<br/>■基調講演 がん拠点病院におけるがん就労支援について(仮題)<br/>近畿大学医学部腫瘍内科 准教授 鶴谷 純司先生<br/>■パネルディスカッション<br/>株式会社健康管理室 益江 毅先生<br/>近畿大学付属病院 看護副部長 小山 富美子先生<br/>社労士もしくは弁護士の方先生</p>                                                                                                   | <p>第62回日本産業衛生学会<br/>全国協議会内で開催<br/>申込み方法：後日、全国協議会 HP へ掲載</p>                                      |
| <p>特別講演：「がん患者をはじめ、症状や治療でハンディキャップを有する労働者への治療と就労の両立支援について」<br/>新日鐵住金㈱君津製鐵所 総括産業医 宮本 俊明 先生<br/>シンポジウム：「復職支援と両立支援をめぐって(仮題)」<br/>(講師 4-5名 調整中)</p>                                                                                                                            | <p>平成 28 年度北海道地方会総会において、<br/>産業医部会企画として開催</p>                                                    |
| 介護施設の職場改善対策について・他 1 題                                                                                                                                                                                                                                                    | 中国地方会四国地方会合同開催                                                                                   |
| <p>パネルディスカッション<br/>「ストレスチェックに取り組む」(仮題)<br/>座長 松原六郎・福井県常任理事</p>                                                                                                                                                                                                           | 第 59 回北陸甲信越地方会との共催企画開催                                                                           |
| <p>テーマ がんと就労<br/>詳細未定 講師 4 名依頼中</p>                                                                                                                                                                                                                                      | 詳細決まり次第、産業医部会 HP へ掲載します。                                                                         |
| <p>①特別講演：<br/>「職域における発 達障害 者をめぐる諸問題(仮)」<br/>講師 伊澤 善史 先生(ヤマハ発動機 心理士)<br/>②『自身の産業医活動紹介』<br/>講師 2-3 名依頼中。</p>                                                                                                                                                               | <p>詳細決まり次第、地方会員へは連絡致します。<br/>事前申し込み必要<br/>三菱重工業㈱大江西健康管理科 石川浩二 宛<br/>kouji_ishikawa@mhi.co.jp</p> |



## 部 会 員 か ら の お 知 ら せ コ ー ナ ー

## 『第50回 中小企業安全衛生研究会全国集会 in 札幌のご案内』



柴田英治



原 俊之

代表世話人 愛知医科大学 柴田 英治

担当世話人 北海道労働保健管理協会 原 俊之

日 時：平成28年12月3日(土) 10:00～16:30

会 場：札幌市医師会館 5階大ホール(札幌市中央区大通西19丁目)

(地下鉄東西線「西18丁目」駅下車 1番出口より徒歩1分)

特別講演：「中小企業で働く人々の健康と安全のために」

吉田 貴彦(旭川医科大学 健康科学講座教授)

シンポジウム：「中小企業におけるストレスチェックの取組みを考える」

大企業の産業医の立場から 三村 政雄(株式会社日本製鋼所室蘭製作所)

嘱託産業医の立場から 佐藤 修二(札幌ワーカーズクリニック)

企業の立場から 只石 秀樹(株式会社モロオ)

学識経験者の立場から 人見 嘉哲(北海道後志総合振興局保健環境部)

実施機関の立場から 飯田 和久(北海道労働保健管理協会)

前回の第40回から10年ぶりに札幌にて開催します。午前中の一般演題にも奮ってご応募ください。終了後の懇親会では、“北の幸”も堪能していただく予定です。

## 『産業医ガイド 改訂第2版刊行のご案内』

関東産業医部会長

介護老人保健施設 新橋ばらの園 福本 正勝

このたび装丁も新たに、関東産業医部会の編集による「改訂第2版 産業医ガイド 基本管理業務からメンタルヘルスまで」が、日本医事新報社より刊行されました。

「嘱託産業医が実践で利用できる参考書」という編集コンセプトのもとに初版を出版してから6年、お蔭様で好評をいただいて参りましたが、その間、安衛法が改正され、ストレスチェック制度が開始されるなど、今や産業医を取り巻く環境はさらに大きく変わりつつあります。

これらの変化に対応するため、今回、必要な加筆修正を行いました。専属、嘱託を問わず全ての産業医に役立つよう企画しています。

「座右に置いて知識の習得だけでなく、疑問が生じたらその都度参照するといった使い方をして頂くと有用」(柳澤裕之関東地方会長の推薦文より)のお言葉をいただいておりますように、本書が皆さまの産業医活動の一助になれば幸いです。出版にあたり、ご協力いただいた産業医部会の先生方に感謝いたします。

産業医ガイド 第2版

B5判 592頁 2色刷 2016年3月

定価 7,344円(本体6,800円+税)



## 編集委員会よりお知らせ

- (1) 部会報をホームページへ掲載しています。

第53号(平成26年12月8日発行)から、産業医部会のホームページへ掲載しております。投稿いただいた記事や写真につき一部削除などを希望される方は、下記連絡先までご一報ください。

URL <http://www.on-top.net/ibukai/kaiho.html>

【連絡先】産業医部会長 斉藤 政彦 大同特殊鋼(株)

Eメール [m-saitou@ct.daido.co.jp](mailto:m-saitou@ct.daido.co.jp)

電話 052-611-9437

- (2) 「部会員からのお知らせコーナー」を新設しました。

本号より、部会員が大会長を務めるなど深く関わる行事の告知や著書紹介、その他の周知を目的としたコーナーを設けました。掲載ご希望の方は、下記事務局宛て原稿(400字以内+写真1枚)をお送りください。なお掲載に関しては、医部会設立の目的「産業医活動の充実と発展」に照らし、編集委員会にて審議し決定いたしますので、ご了承のほど、お願いいたします。

- (3) 幹事会議事録は、第56号(平成27年11月20日発行)より部会ホームページへ移転いたしました。

URL <http://www.on-top.net/ibukai/jigyo.html>

- (4) 自由投稿へのいざない

部会報は部会員の交流の場です。皆さまの自由投稿を歓迎します。ご自身の産業医活動あるいは日頃思っていることなどを800字以内にまとめて、下記事務局宛てメールにてご送付ください。ご投稿をお待ちしています。

- (5) ご意見をお寄せください。

編集委員会の方針として、より多くの先生方の活動や意見をご紹介したいと考えております。部会員の皆さまのご期待に沿えるよう紙面の充実に努めてまいりますので、ご意見など、ぜひ事務局までお知らせください。

【事務局連絡先】(公社)日本産業衛生学会 産業医部会事務局

Eメール [sanei.4bukai@nifty.com](mailto:sanei.4bukai@nifty.com)

電話 03-3358-4001 FAX 03-3358-4002

## 編集後記

今回初めて編集を担当させていただきました。慣れない中、色々ご迷惑をおかけしたのではないかとお詫び申し上げます。今号で執筆をご依頼した先生方、快く引き受けて下さいまして深く感謝いたします。先生方の細やかなお心遣いに触れ、本当に胸が熱くなりました。編集作業は大変だとネガティブなイメージがありましたが、実際担当してみると先生方とのつながりを再認識できて、多くのことを学ぶ機会を頂いたと感じています。

58号より新シリーズ「はじめまして！」がスタートしました。フレッシュな先生方をご紹介できればと思います。また「部会員からのお知らせコーナー」も新設しました。部会員の先生方に情報発信したいことがございましたら、どうぞご活用下さい。これからも紙面を充実できるように努力していきますので、部会員の先生方のご協力をお願い申し上げます。

9月の全国協議会は世界の人気都市ランキングで2年連続1位の京都で開催されます。近畿地方会の先生方も準備に奮闘されています。それでは皆様、次回は京都でお会いしましょう！

(I)

事務局連絡先・投稿先

公益社団法人 日本産業衛生学会 産業医部会事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-29-8 公衛ビル内

TEL: 03-3358-4001 FAX: 03-3358-4002

E-mail: sanei.4bukai@nifty.com

## 編集委員会委員

石川 浩二 (三菱重工)、○彌 富 美奈子 (SUMCO)

◎谷 山 佳津子 (朝日新聞)、原 俊 之 (北海道労働保健管理協会)

◎: 編集委員長、○第58号編集担当 (五十音順)